

# 「やまの健康」宣言

## 大津市葛川地域



### 大津市葛川地域「やまの健康」宣言

令和2年（2020年）1月発行

#### 【推進体制】

葛川まちづくり協議会

（総会・運営委員会・常任委員会のもとで以下の部会が取組を推進）

移住・定住部会	部会長 澤井 進
公共交通・通信網部会	部会長 佐々江 勝
花の里山部会	部会長 長尾 正志
地域おこし協力隊検討部会	部会長 中西 克己
特産育成部会	部会長 山本 伊三郎

この宣言は滋賀県「やまの健康」推進プロジェクトにおいて  
令和元年（2019年）7月から12月にかけて開催した  
地域プラットフォーム（大津市葛川地域の関係者、滋賀県等  
（「やまの健康」推進事業担当者）の協議により作成されました。  
表紙の画像は（公社）びわこビジターズビューロー提供



"Image: Freepik.com" This cover design used resources from Freepik.com.



私たち大津市葛川地域は、

- ①農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって経済循環や県民全体・県外との関わりをつくること
- ②森林・林業・農山村を一体的に捉え、琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されること

これらを実施しながら、美しい清流と緑に囲まれた、移り住みたい、住み続けたいまちを目標として、農山村が活性化し居住人口が増加している姿（やまの健康）の実現に向けて、取り組みます。



滋賀県「やまの健康」モデル地域  
大津市葛川地域  
令和元年度（2019年度）～令和3年度（2021年度）

## ●地域の魅力

### ★豊かな自然環境とそれらを活用する施設・設備

大津市葛川地域の魅力は何と言っても、美しい清らかな清流や山の木々の美しい緑といった、豊かな自然環境です。また、森林組合や漁業組合には、これらの資源を製品に加工する施設・設備があります。

### ★地域の歴史と文化が醸し出す風情

葛川地域の明王院は中世9世紀に創立され、以来、京都などから深く信仰を集めてきました。地域は、寺院・文化財に恵まれ、また、当地域ならではの民俗行事が残されています。地域の歴史・文化が醸し出す風情も当地域の魅力です。

### ★立地環境

当地域からは車を利用すれば40分程度で大津市中心地まで出かけることができます。また、JR湖西線の「堅田」駅までは30分程度でアクセスでき、そこから「京都」駅までは電車で20～30分です。

### ★地域づくりにチャレンジするコミュニティ

過疎化・高齢化の問題に加え、路線バス減便、保育園休園、小中学校の統廃合危機などが起きる中、自治連合会では、単発的な対応ではなく、長期的な展望に立った総合的な地域振興計画の立案と、それに基づいたまちづくりに全地域を挙げて取り組む方針を採ってきました。

当地域では、住民らへのアンケート調査の結果を受けて、「葛川まちづくり協議会」の組織づくりや「葛川まちづくり振興計画」案を検討し、平成30年度に「葛川まちづくり振興計画」を同協議会総会において策定し、具体的な取組を始めています。



葛川地域は、仲平町、坂下町、木戸口町、中村町、坊村町、町居町、梅ノ木町、貫井町、細川町の9つの集落を含みます。森林面積はおよそ4,437ha、農用地面積は166haであり、130戸・237人が暮らす地域です。（令和元年（2019年）7月1日時点）

## ■地域の課題

### 1. 人口の減少について

明治31年（1898年）262戸、1,585人であった人口も、現在237人まで減少している状況です。また当地域では人口減少に加え、50%を超える高齢化の進展も見られるなど、集落の持続が危ぶまれる事態に至っています。まず人口の減少を食い止め、地域を維持できるだけの移住者数を想定し、その確保に向けた取組を進めることが必要であると考えています。

### 2. 野生獣被害について

近年、猟師の数が減り野生獣の捕獲数が減少したことや、大規模な雑木の伐採とその跡地にスギを植林した影響により、年々野生獣が住処とエサを求め、季節を問わず山里に下りてくるようになり、農作物や住宅等への被害が年中発生しています。

耕作放棄地の増加は地域の荒廃につながりますが、葛川地域では地域住民の高齢化も相まって近年では集落内だけでなく、自宅敷地内の畑すら耕作を放棄する動きが広がっています。

しかし、少し手を入れれば復活できる農地もあることから、これらを活用して、例えば、寒暖差の大きい葛川の気候を活かした農業生産活動を目指すなどの取組について検討する必要があると考えています。

### 3. 地域運営について

過疎・高齢化の影響で、自治会・諸団体役員の担い手が不足し、地域運営の負担がごく少数の者に集中しておりいかにして地域運営を維持するかが喫緊の課題です。その為、地域の担い手になる若い世代の確保に取り組む必要があると同時に、若者にとって住みたい、住み続けたいと思えるような魅力ある地域とすることが必要です。

### 4. 生活環境について

過疎・高齢化が進む当地域にあって、住民の移動手段の確保は重大な課題です。

公共交通でカバーできない部分については、地域住民の自助共助で補う必要がありますが、その仕組みについての真剣な議論が必要な時期にきています。

また、空き家の発生の問題も課題であり、空き家を単に課題として捉えるのではなく、地域の資源ととらえ各種サークルや地域活動の拠点への活用や民間事業者の活力を取り入れた活用などの検討が必要です。

### 5. 森林の現状と課題について

かつて葛川地域ではクヌギ、ナラといった広葉樹が多く茂る森林でしたが、戦後、スギをはじめとする針葉樹が植栽され、現在はその多くの森林が伐採されることのない放置林となっています。

また、近年被害を拡大させる傾向のある台風や局地的な豪雨により、風倒木や土砂崩れが発生し、そのたび幹線道路が寸断、停電の発生、護岸擁壁が崩壊するなど地域のインフラを脅かす事態になっています。これらは長年森林が放置されてきたことに起因するものと考えており、これらを防止・抑止するために危険木の除去や治山に取り組むとともに、森林の持つ保水機能などの再生を図る、いわゆる「やま」そのものの健康に取り組むことが必要であると考えています。

## ●「やまの健康」事業で目指す地域の将来像

葛川地域では平成30年（2018年）10月に策定した「葛川まちづくり振興計画」において、葛川地域の人口減を食い止め、生活基盤の維持・改善と地域性を活かしたまちの活性化を図ることを将来の目指す姿にしており、具体的には、

**居住人口500人(現237人)程度、美しい清流と緑に囲まれた、移り住みたい、住み続けたいまち**

を地域の目標としています。

また、この計画の推進を担う組織として、同じく平成30年度（2018年度）、まちづくり協議会を発足させ、まちの活性化を図ることとしています。

本振興計画において、1. 人口の維持・増加、2. 住環境の整備・改善、3. 地域性を活かした街の活性化を柱とした基本方針を示し、具体的に次の取組を打ち出しています。

1. 人口の維持・増加（人口流出の防止と子育て世代の移住促進）
2. 住環境の整備・改善（生活基盤の利便性向上と防災策）
3. 地域性を活かした街の活性化（地域産業の掘起こし、応援）

葛川まちづくり振興計画の実践と合わせ、「やまの健康」の取組を通じて葛川の魅力を再発見し、掘り起こし、それらを活用することでかつての賑わいを取り戻します。

そして、将来、美しい自然に囲まれた山里で、子どもたちが山や川で走り回る姿、果樹や野菜が農地に実る風景、山や川の恵みが人々の収入になり、休日には自然の癒しやレジャーを求めて沢山の観光客が訪れ、地域住民がこの地を愛し、この地での生活に自信が持てるようになるために、当事業を通じてしっかり実現していきたいと考えています。

## ■課題に対する取組

### 1. 森林との関わり

葛川地域は広大な森林が広がる一方で、多くの耕作放棄地を有することから、地域資源を活用した取組により農山村の活性化を目指す「やまの健康」の取組をきっかけにして、我々住民が山および林業への関心を取り戻す流れをつくりだし、土地所有者だけでなく、地域ぐるみの取組により適切に管理していけることを目指します。このことにより、山が本来有する多面的機能の発揮と、山・川・里の葛川ならではの豊かなつながりを取り戻していきます。

### 2. 地域活動の取組の方向性

「やまの健康」の取組として、獣害を受けにくく、当葛川地域に適した“りんどう”栽培を地域振興の核とした取組に着手します。

“りんどう”の栽培は耕作放棄地の有効活用につながるだけでなく、仏花やカジュアルフラワーなど消費者ニーズも大きいことから、これを葛川が取り組む特産品目に据え、葛川まちづくり協議会の中に部会を設置し、地域を挙げて取り組むこととします。

地元小中学校において、子どもの起業家精神を養うアントレプレナーシップ教育に、“りんどう”を活用することで、人材育成に加え、将来の地域の産業おこしの基盤を整えていきます。

また、地域主体のカーシェアリングの取組を通じて、住民の移動手段の確保やコミュニティづくりへとつなげていきます。